

# みなとまち新潟 歴史探訪③

問 歴史文化課

☎025-226-2584

## 明治・大正時代の新津油田と原油輸送

明治時代、新津町(秋葉区)や関屋(中央区)には多くの製油所があり、主に新津油田から運ばれた原油が灯油や機械油などの石油製品に精製されていました。

明治前期、原油は各鉦区から新津町までは樽に入れて背負うなど人力で、関屋までは荷舟に移して能代川、小阿賀野川、信濃川を通して運ばれました。明治30(1897)年に北越鉄道の沼垂駅・一ノ木戸(現在の東三条)駅間が開業すると輸送手段に鉄道が加わり、新津駅と矢代田駅には原油貯蔵タンクが設置されました。

鉄道開業後も、荷舟は川沿いの製油所に直接原油を運び込める利便性を生かして引き続き活躍しました。金津鉦区から小須戸町雁巻(秋葉区)の信濃川船着き場につながるパイプラインが敷かれ、輸送の効率化が図られました。時代と共に原油の輸送手段は近代化・多様化しましたが、川の荷舟は日本屈指の油田として繁栄した明治・大正期の新津油田を輸送面から支えました。



原油を積んだ荷舟が能代川を行く  
(新津図書館蔵)



新津駅前の原油貯蔵タンクと原油輸送車  
(新津鉄道資料館蔵)